

令和五年度別府市小・中学生「人権作文」入賞作品

佳作

「やさしい店いんさん」

別府市立亀川小学校二年 吉野 陽菜

わたしは、よくママといっしょに、学校のちかくのスーパーにかいものに行きま
す。

そのスーパーには、たくさんの店いんさんがいます。そして、その中にせのひく
い店いんさんがいることに、わたしはずっと前から気づいていました。

ある日、かぞくでそのスーパーに行ったとき、おとうとがその店いんさんに気づ
いて、

「あの店いんさんせがひくいね。」

と言いました。わたしは、なんとなく言っちゃだめだと思ったのでおとうとに、

「しっ。」

と言いました。

だけど、その店いんさんのことが気になったので、ママに、

「なんであの店いんさんはせがひくいのか。」

ときいてみました。ママは、

「もしかしたら、びょう気でせがひくいのかもかもしれないね。」

と言いました。わたしは、それを聞いてかわいそうと思いました。ママは、それか
ら、

「でも、ママはあの店いんさんのレジがいちばん好きだよ。」

と、言いました。たしかに思いだしてみるとママはいつもその店いんさんのレジに
ならんでいます。ふしぎだなと思って、ママに

「なんで。」

と聞くと、ママは、

「なんでと思う。ひなちゃんわけをさがしてみてね。」

と言いました。

それで、わたしはその店いんさんのことをよく見てみることにしました。よく見ると、店いんさんのいいところをたくさんみつけました。

一つ目はこえが大きいところです。

「レジぶくろはいりますか。」

とか、大きなこえで元気にきいていました。

二つ目は、にこにこえがおなところ です。にこにこえがおをしてくれてとっても心がうれしくなりました。

三つ目は、とってもしんせつなところ です。なかなか十円玉が見つからないでおきやくさんがごまっているときも、にこにこしてまってくれていて、それで十円玉がみつかりました。おきやくさんはうれしそうでした。

四つ目は、みんなとなかよしなところ です。ほかの店いんさんやおきやくさんとのしそうにしゃべっていました。

五つ目は、レジのしごとをがんばっているところ です。レジをするとき、だいのぼっておしごとをしているのをみつけて、すごいなあと思いました。

わたしは、ママがその店いんさんのレジがすきなのは、元気になるし、うれしい気持ちになりそうだからかなと思いました。

わたしは、はじめは店いんさんのことをかわいそうと思っただけど、その店いんさんはすごい人だということに気がつきました。

わたしも、店いんさんみたいにやさしくて、がんばりやさんで、まわりの人を元気に気もちや、やさしい気もちにできる人になりたいです。